



横浜国立大学 AEゼミ

# アートツール キャラバン



# 横浜国立大学 AEゼミナール 〈アートツール・キャラバン〉のご紹介

2010.4

横浜国立大学 教育人間科学部 学校教育課程 美術教育講座  
大泉 義一（おおいずみ よしいち）

## 1 概要と経緯

### (1) 科学研究費補助金助成研究の一環として

- ・本プロジェクトは、科学研究費補助金の助成（基盤研究(C)・課題番号 21530920）を受けて取り組んでいる『造形実験装置による巡回式ワークショップ・プログラムの開発研究』の一環として実践するものです。本研究の期間は、平成 21～23 年度の予定です。
- ・その概要は、次の通りです。

本研究は、教職志望学生が、学校や地域施設、地域イベントや美術館などを巡回して造形ワークショップを実践する〈アートツール・キャラバン〉のための教具装置群、すなわち〈アートツール〉（図 1）を創案・製作し、それらによって環境構成された実践プログラムを開発することを目的としています。このプログラムにおいて、子どもたちは〈アートツール〉で遊ぶことを通して、自らの感覚を発揮し創造心を奮い立たせることができると考えています。

さらに学生と〈アートツール・キャラバン〉（図 2）の実践を展開し、それに参加する子どもたちの活動様相を分析・考察することにより、ワークショップ実践の教育的意義を子どもの視点から検討するとともに、子どもの造形活動の個別具体的な在り様に対する学生の理解を促し、教員としての資質の向上を図ることを目指します。

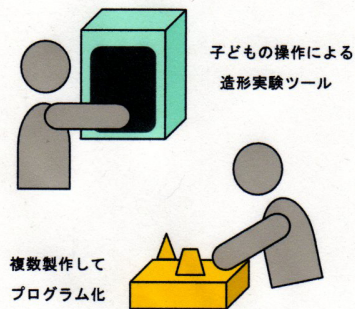


図 1 〈アートツール〉のイメージ

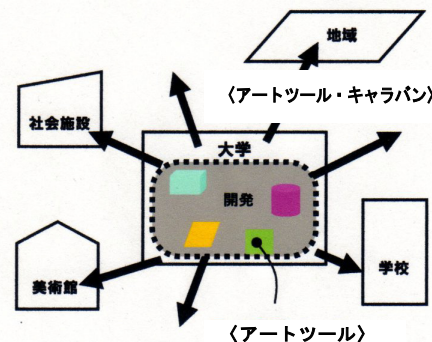


図 2 〈アートツール・キャラバン〉のイメージ

### 〈アートツール・キャラバン〉とは？

- 〈アートツール・キャラバン〉は、子どもの諸感覚（視覚・触覚・聴覚・嗅覚）を刺激して、能動的で実験的な造形行為を促す〈アートツール〉が設置された〈あそび場〉です。
- そこでは、子どもたちが〈アートツール〉で遊ぶことを通して、自らの感覚を発揮し創造心を奮い立たせることができるでしょう。
- 〈アートツール・キャラバン〉は、子どもたちが居る様々な場所（公園、公共施設、美術館、学校など）を訪問します。

## (2) 実践メンバーである〈横浜国立大学・AEゼミ〉について

- ・〈AEゼミ〉とは〈Art Education Semior〉の略称です。
- ・〈AEゼミ〉は、「美術+教育+子ども」に関心のある横浜国立大学のメンバー有志で構成されています。現在、30数名が所属しており、メンバーには、将来教師になりたい人、現在教師をしている人、そしてデザイン・教育の研究者がいます。単位履修を伴わない、完全有志のメンバーであり、その立場も様々ですが、意欲に満ちているメンバーです。
- ・本プロジェクトでは、そのメンバーの中の10数名が〈ツールゼミ〉として企画・運営・実践しています。

## (3) 先行実践・・・『ワークショップ・コレクション2009』での実践

- ・NPO法人CANVAS、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科(KMD)が主催する、子ども向けワークショップの祭典『ワークショップ・コレクション2009』にて、上記ワークショップを実践しました。
- ・期間は、平成22年2月27日・28日の2日間で、祭典全体の参加者は延べ3万5千人、私たちのワークショップには、人数制限を設けたうえで、約800人もの参加がありました。
- ・本企画書の表紙写真は、その時の様子です。また作成したチラシは別紙の通りです。
- ・会場に設置した〈アートツール〉は9つで、ファシリテーターとして13名が参画しました。



スイッチ / 原田萌

思う存分、スイッチを入れるのって楽しい！



なにがみえるかな？ / 広瀬美純

切り込みから中をのぞいてまわしてみると…。



きづきほらあな / 中村めぐみ+高橋侑子+平谷佳世  
全身で感じながら「ほらあな」でなごもう。



光の点でえがこう / 岩崎知美

暗闇に黒い紙。穴をあけてみるとそこから光が…。



つなげるモビール / 間 瑤子

バランスをとりながら、自分のすきなモビールどうしをつなげてみよう。



マジックネジ / 賀 挺

クルクルまわしてつなげていこう。何ができるかな？



さわる さわる / 山下真菜  
いろいろな触りごこち。お気に入りは何れ？



きせかえ人形 / 魏 棋  
お気に入りの服に着替えて、いつもの自分から変身してみよう。



なんのたまご？ / 大泉義一  
見た目は「卵」。触ってみるとあれ？何の卵かな？

- ・本ワークショップでは、〈アートツール〉を設置して参加する子どもたちに遊んでもらうとともに、〈なんのたまご？〉のツールを実際につくってみるプログラムを実施しました。つまり会場は、〈あそびゾーン〉と〈つくるゾーン〉で構成されていました。
- ・この時には、子どもが理解しやすいように、ワークショップ名を〈あそぼう・つくろう・アートのおもちゃ〉としました。
- ・この時の様子を振り返り、メンバーの一人は、次のようにコメントしています。

前略・・・ 昨年の先輩方の活動として知った“アートツール制作”は、授業などのように教師や大人が指示したり、教えたりするのではなく、子供が自発的に装置と向き合い、遊びの中で気付きや発見を得ながら、その子なりの感じ方でアートを楽しんだり感じたりするというコンセプトがとても新鮮で、魅力を感じました。普段の生活の中で、子供たちの世界には面白いこと、魅力的な楽しいことがたくさんあって、私たち大人が気付かないところで子供たちは様々なことを感じたり、楽しんだりしている。そういう中に、美術や教育に通じるような、“感じること”の原点のようなものが、とても自然に隠れているのではないかと……そのような考えが、私の中にも生まれました。“小学校の図工の授業”を離れ、もっと視野を広げて子供の世界や子供の目線を考えてみると、アートや“感じること”は、子供たちととても密接に関係しているように思えたのです。・・・後略 (学部3年生(当時))

#### (4) 〈アートツール・キャラバン〉実践のご相談

- ・冒頭で述べたとおり、本プロジェクトでは、様々な〈子どもの居る場所〉へ出向いて、〈アートツール〉による造形ワークショップを巡回実施〈キャラバン〉していきたくと考えています。
- ・そこでもしよろしければ、ぜひ貴施設での〈アートツール・キャラバン〉の実施・開催の可能性を探れればと考えております。
- ・〈アートツール〉は、本年度において改善を行うとともに、新たに創案・製作していきます。ですので、貴施設のご要望に応じて〈アートツール〉やワークショップの内容を新たに構想することも可能です。
- ・以下に、実施例を挙げておきます。もしご興味がおありの場合は、直接おうかがいしてご相談させていただければと思います。

## 2 実施例

### (1) ワークショップ名 (例)

アートツール・キャラバン — あそぼう・つくろう・アートツール —

### (2) 対象

小中学生とその保護者 (保護者同伴であれば幼児も可)

### (3) 実践メンバー

横浜国立大学 AEゼミメンバー (10名程度予定)

### (4) 実践内容 (例)

〈あそぶゾーン〉 参加者は、会場に設置された〈アートツール〉で遊びます。  
(20~30分間)

↓ 移動

〈つくるゾーン〉 参加者が遊んだ〈アートツール〉に関連した何らかの造形活動に取り組みます。(15~20分間)

上のプログラムには、一度に15名程度が参加することができます。  
さらに、このプログラムを何回か繰り返し実践することも可能です。

### (5) 備考

- ・材料費等は、研究費から捻出いたします。(参加者から費用はいただきません)

### (6) 連絡先

- ・もし実施の可能性がございましたら、詳しくご説明にうかがいますので、ご一報ください。
- ・今後の連絡先は、以下の通りです。

横浜国立大学  
大泉義一研究室

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2  
045-339-3453 (研究室)  
oizumi@ynu.ac.jp  
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~oizumi-labo/>

- ・ご検討のほどをよろしくお願い申し上げます。